

芸備線再構築協議会第 3 回幹事会の開催結果について

1 概 要

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」について、令和 6 年 12 月 25 日、第 3 回幹事会が開催されたため、その結果について報告する。

〔芸備線再構築協議会の概要〕

- 対象路線：芸備線
- 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
- 構 成 員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、
広島市、安芸高田市、三次市、J R 西日本、学識経験者 ほか
- 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場

※広域的な見地から特定区間以外の区間も含めて広島駅～備中神代駅間の区間について議論を行う。

2 現状・背景（経緯）

令和 5 年 10 月 3 日 J R 西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請

令和 6 年 1 月 12 日 中国運輸局が芸備線再構築協議会の設置を決定

3 月 26 日 第 1 回芸備線再構築協議会 開催

5 月 16 日 芸備線再構築協議会第 1 回幹事会 開催

7 月 10 日 芸備線再構築協議会第 2 回幹事会 開催

10 月 16 日 第 2 回芸備線再構築協議会 開催

12 月 25 日 芸備線再構築協議会第 3 回幹事会 開催

3 議 事

- (1) 芸備線再構築協議会幹事会規約の変更
- (2) 芸備線再構築に関する調査事業（調査事業 A）
- (3) 令和 7 年度芸備線再構築協議会予算及び構成員負担金
- (4) その他（J R 西日本から芸備線収支等の最新データの報告、構成員からの意見）

4 議事の内容

(1) 芸備線再構築協議会規約の変更

安芸高田市の加入に伴う幹事名簿の変更について、構成員間で承認。

(2) 芸備線再構築に関する調査事業（調査事業 A）

調査事業の進捗状況について、事務局から説明。

- ・ 令和 7 年 1 月下旬から、庄原市・新見市の沿線住民約 3,000 世帯に対して、住民アンケートを実施するとともに、庄原市・新見市の関係団体への個別ヒアリングなどを実施。
- ・ 今後実施すべき実証事業を立案し、その事業から生み出される経済波及効果を「地域経済効果」として試算した上で、当該実証事業を実施し、芸備線の多様な価値を検証。

構成員	主な意見
広島県	・ 今回事務局から示された、地域経済効果については、今後の協議会の議論において重要なものになってくると考えられることから、構成員間で共通認識を持ちながら、協議を進めていく必要がある。 ・ このため、地域経済効果の算出方法に当たっては、波及効果の捕捉など、考え方や根拠を明らかにし、構成員のみならず、県民視点で幅広く納得の得られるものにしていただきたい。 ・ 現場の課題を把握し、地元の声を反映していくため、県と庄原市では、地域の関係者の方々と一緒になって、実証事業の具体的な取組について検討を進めているため、調査事業に反映していただくとともに、協議会の実証事業として実施できるようにしていただきたい。 ・ 三江線など、廃線後の地域への影響は、参考になると考えられるため、可能なものは捕捉して分析していただきたい。

構成員	主な意見
岡山県	調査により現状を正確に把握することが重要であり、今後行われる、沿線住民へのアンケートや関係団体へのヒアリングに当たっては、前提条件やタイミングによって意見や考えも変わるため、どのような聞き方をするのか、各構成員間で十分確認し実施していただきたい。
新見市	- 意見聴取を行う関係者として、商工団体、観光協会などを含め、幅広く多様な関係者を対象に行っていただきたい。特に本市の市議会にはローカル線の特別委員会が設置されており、市議会議員を対象を含めていただきたい。 - 調査事業の結果を基に実証事業を実施することになるため、定性的な価値も適正に評価したうえで、「芸備線の可能性を最大限追求する」という共通認識に沿った仮説を構築できるよう、しっかりとした調査分析をお願いする。
庄原市	- 地域経済効果等が、鉄道費用などを上回るかどうか、今後の方針を決める評価基準のように見えるため、今後の地方ローカル線の議論に影響することを踏まえ、考え方についてしっかりとした整理が必要である。 - 庄原市としては、実証事業Aの中で、定量的価値だけでなく、定性的価値・新しい価値や役割についての仮説実証を行っていただきたい。
J R 西日本	- 実証事業は、実施に係る費用や期待する効果を踏まえ、過去の利用促進の取組で得られているデータなどを活用し、スケジュール感を持って効率的に進めていただきたい。 - 仮に鉄道での再構築であれば、今後明らかにされる地域経済効果を踏まえ、持続性・利便性を向上させる観点から、誰が運行主体となり、どのような組織で運営されるのか、並行して議論していただきたい。 - 最適な交通手段の検討として、限りあるリソースを使って、どのように持続性・利便性を高めていくのか、様々な選択肢を並行して吟味、検討する必要があるため、そうした観点を踏まえて進めていただきたい。
神田教授	ローカル線のあり方検討にあたり、事業収支のみならず、地域経済効果を捉えて検討していく方法は、ヨーロッパでは行われているが、日本では前例がない。このため、地域経済効果の対象は、幅広く捉える必要があり、何を対象とするかについて、構成員間で共通認識を持ち、進めていくことが必要である。

(3) 令和7年度芸備線再構築協議会予算及び構成員負担金

令和7年度の協議会予算案及び負担割合について、次のとおり構成員間で確認。

- 負担金については、国1/2、J R 1/4、2県2市1/4を「基本的な負担割合」とする。
- 令和7年度の協議会当初予算については、運営費（250万円）のみとする。

構成員	主な意見
広島県	- 実証事業は、住民の皆様の理解と納得を得ながら進めることが重要であり、取組の周知から定着に一定の時間を要することや、日常利用や観光利用における春夏秋冬の季節に応じた移動需要の変化を踏まえる必要があるため、最低でも1年間は実施する必要がある。 - 調査結果が出たら速やかに実証事業に取り組んでいく必要があると考えており、国のリーダーシップのもと、ダイヤの変更や増便等を含めた実証事業の内容を決定するためのプロセス、また、実証事業の予算計上の時期を含む今後の進め方について、そのスケジュールを明らかにしていただきたい。

※ 他の構成員（岡山県、新見市、庄原市、J R 西日本）からの意見等はなし

(4) その他

ア J R 西日本から芸備線収支等の最新データの報告

備後庄原駅～備中神代駅間の費用構造の最新データ及び乗込調査について報告。

- これまで、過去3か年平均の費用構造が報告されていたが、今回、単年度ごとの費用構造と最新の2023年度のデータが公表された。

イ 構成員からの意見

構成員	主な意見
広島県	- 全国的な鉄道ネットワークのあり方について、10月の協議会で、国土交通省からあった説明は、基本方針と大臣指針に基づき、再構築協議会の設置要件とJRの路線維持に係る努力義務の規定について従来の考え方の説明が行われただけであり、本県が求めてきた内容に対する具体的な説明はなされていないと受け止めている。 ①将来の国土のあり方を見据えた鉄道ネットワークの位置づけ、 ②国鉄改革の経緯やJRの経営状態を踏まえた内部補助の考え方、 ③ローカル線の維持に係る国の責任の在り方について、国の考え方を明らかにしていただきたい。 - 前回協議会後の記者会見において、中国運輸局長から、「自治体が腑に落ちていないのであれば今後説明を尽くしていきたい」との御発言もあったが、全国的な鉄道ネットワークのあり方に関する整理は、この協議会の議論の大前提であり、この場で説明していただきたい。 ⇒国土交通省の回答 内部補助の考え方を含む鉄道ネットワークに関する考えは、これまでも説明しているところである。今回広島県からこうした意見が出たことを踏まえ、次回協議会に向けて、本省内で共有させていただく。
新見市	10月に開催された協議会において、本市の副市長が、「国においては、南海トラフなど大規模災害時における代替ネットワークとして想定しておらず、一部の自治体だけの判断でネットワークを分断して良いのか、また、鉄道を維持する場合、維持しない場合の様々な選択肢を示していただきたい」など発言している。これに対する考え方を示していただきたい。
庄原市	庄原市としても、腑に落ちておらず、回答をいただけていないと認識しているため、早期に国の考えを明らかにしていただきたい。
神田教授	- この協議会の議論が何のためか考えたときに、地域の人がいい暮らしができるようにしていきたい、その中で鉄道がどのような役割を果たせるかということだと考える。 - 鉄道の価値を引き出すためには、自治体とJRがそれぞれの立場を超えて、構成員の総力で取り組まなければならない。

5 今後の対応

- 全国的な鉄道ネットワークのあり方については、今回の幹事会の場においても、国から具体的な説明はなく、引き続き国に整理を求めていく。
- 実証事業の具体化に向けて、庄原市と連携し、引き続き、地元の商工団体、まちづくり団体及び観光・交通事業者等との検討を行っていく。
- 地域経済効果の算出方法については、国に対して、波及効果の捕捉など、考え方や根拠を明らかにし、県民視点で分かりやすいものとなるよう求めていく。

6 その他

(1) 今後のスケジュール（予定）

令和7年 1月頃 第4回幹事会

令和7年 3月頃 第3回芸備線再構築協議会（以降、順次開催）

(2) 予算（単県）

2,945千円（令和6年9月補正）